

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校  
「指定校における取組事例」

学校名	三次市立三次小学校	校長	中田 弘幸	担当者名	吉羽 芳晴
-----	-----------	----	-------	------	-------

取組事例名	『授業観察交流』
-------	----------

○	生徒指導に係る連携体制の確立	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
---	----------------	------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

根気強く取り組む力，伝え合う力(コミュニケーション能力)，自己肯定感の向上

取組のねらい

学習に意欲的に取り組めない児童の指導に悩む教職員がいる中，教職員同士の授業交流を計画的に行うことで，学級づくりや指導の工夫について学び合い，児童の自己肯定感を向上させ，学習に粘り強く取り組める授業づくりにつなげる。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

○専科の授業時間等を利用して，同学年・他学年の授業観察を行う。  
特別支援学級の担任が，交流学級や交流学級以外の授業参観を行う。  
※通常の学級の担任は3回のうち1回は，特別支援学級を参観する時間とする。

<実施までの流れ>  
○本来なら，研究授業等で他の教員の授業を参観することで，授業での指導技術や児童への関わり方・見とり方を学び合うのだが，本年度はコロナ禍のため，その機会が減少。

○第1回(9月14日～9月30日)  
・同学年学級を見合う。  
・1学年は2学年の授業を，5学年は6学年の授業を参観する。  
・特別支援学級の担任は，互いに授業を参観し合う。

↓  
○学校を巡回している際に，学年間での指導に差ができていたように感じた。

○第2回(11月9日～11月20日)  
・低学年・中学年・高学年で見合う。  
・1学年は3学年の授業を，5学年は4学年の授業を参観する。  
・特別支援学級の担任は，児童が交流学級で行く学年以外を参観する。

↓  
○研究主任と相談。授業改善の視点からも学ぶ場の必要性を感じて『授業観察交流』を計画。

○第3回(1月14日～1月25日)  
・1・2・3学年は4・5・6学年を，4・5・6学年は1・2・3学年を参観する。  
・特別支援学級の担任は，児童が交流学級で行く学年以外を参観する。

↓  
○どのような体制が必要か，他の教職員とも相談。

※4・5・6学年は，1・2・3学年でどのような学習規律を身に付けているのかを確認し，それを踏まえたうえで，高学年としての指導を見直す。  
※1・2・3学年は，4・5・6学年を見て，その学年までにどんな力を身に付けなければならないかを確認し，そのための低学年での指導を見直す。

↓  
○『授業観察交流』の実施。  
【授業参観の視点として】  
・児童の見取り方 ・肯定的な声かけ  
・児童が語る場づくり ・問題提示の工夫  
・座席の工夫  
・学習に根気強く取り組めるようなねらいの明確化 など  
○普段の授業のみを考えるならば，同学年もしくは近い学年を見に行くだけで十分と思われるが，小学校6年間通しての指導や特別支援教育の視点を持つため，様々な学級を参観する機会を設けた。

取組の成果と課題

<職員アンケートより>  
・職員アンケートより『授業観察交流』の実施に対する肯定的評価は86.5%だった。(学習指導については91%，生徒指導については82%)  
○授業観察交流により児童の自己肯定感等を向上させるための手立てを共有することができた。共有した手立てを教職員が実践することで児童に寄り添った指導ができた。その結果，児童が集中したり，粘り強く取り組もうとしたりする姿が見られた。  
○異学年との学習のつながりを意識することができた。  
●1～3学年は空き時間が少ないので，時間を確保してほしい。  
●授業だけでなく，研修などで教室環境や掲示物などの実践交流もしてみたい。

<全体の振り返りとして>  
○お互いの授業を参観して学び合う機会の確保ができた。  
○決まった期間内だけでなく，自主的に他の学級へ参観する教員もいた。授業観察交流が教員間の学び合いの動機付けにつながった。  
●教員が参観するための空き時間の確保が難しい。専科の授業等を利用したが，低学年の教員の時間の確保が厳しかった。また，特別支援学級の担任は，児童全員が交流に行くという時間がなく，空き時間の確保が特に難しかった。